

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

協同組合が  
つなぐ  
未来

87

2017. 11. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指してー協同が息づくまちづくりー」を基本理念として、協同組合の共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ ..... 1
2. 第95回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く ..... 2  
兵庫JCC宣言 ..... 3  
記念講演「おひとりさま」と「おたがいさま」(抜粋) ..... 4
3. 「虹の仲間づくりカレッジ」を開く ..... 5

Contents

4. 今協同組合では一各協同組合からの報告ー  
●生協/JForest（森林組合） ..... 6  
●JA（農協）/JF（漁協） ..... 7
5. 協同組合運動に生きる  
協同組合に生かされるー小さな協同のためにー  
JA兵庫中央会 協同組織部長 小寺 収 ..... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### 2017 広島被爆ピアノ平和コンサートを開く



#### 生協

8月19日、9回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開き、約230人がつどいました。会場は被爆ピアノの音色と平和への願いを込めた歌声に包まれ、平和について考える一日になりました。

### 県産山田錦の魅力を発信 飲食店向け催しに出展



#### JA（農協）

県内山田錦産地JA、JA全農兵庫、県酒米振興会などで行く「ほんまもん山田錦需要拡大協議会」は、9月12日に大阪市内、28日に東京都内のホテルで、インターネット飲食店検索サイト「ぐるなび」が主催する商品展示会に出展。飲食店関係者らに、県産山田錦を使った日本酒の魅力を発信しました。

### 豊漁祈願祭で祈願



#### JF（漁協）

7月14日、豊漁祈願祭が豊岡市・絹巻神社の神職により執り行われ、参加者は豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

### 第32回ひょうご木材フェア開く



#### JForest（森林組合）

10月8日、兵庫県木材利用推進協議会（兵庫県内の林業関係団体で構成）によるひょうご木材フェアが「～木材は人と地球にやさしい循環資源～ 木材を使って、人に健康を、地球に元気を」をテーマに神戸ハーバーランドで開かれました。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634  
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5896  
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013  
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

# 第95回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は7月6日、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く― 協同組合がよりよい社会を築きます―」をテーマに、第95回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開きました。

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、世界の協同組合員が心をつなげて協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を誓い合う日です。県内からは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、森林組合の組合員や役職員など388人が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県生活協同組合連合会の木田克也会長理事が挨拶。兵庫県漁協女性部連合会の森武美会長が「『協同組合の思想と実践』がユ

ネスコ無形文化遺産に登録されました。今こそ協同組合は地域・社会に貢献できるかをテーマに、次世代に向け、協同組合間協同の連携関係を前進させます」と兵庫 JCC 宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

第2部では、女性学のパイオニアで高齢者の介護問題にも関わる社会学者の上野千鶴子さんが、「『おひとりさま』と『おたがいさま』」と題して記念講演。近い将来、超高齢独居世帯が5割を超えるとされる中、満足いく老後を送るための3条件や、弱者になっても安心できる社会づくりについて、事例をあげてわかりやすくお話しいただきました。また、各地で試行錯誤を重ねる中、協同組合の先進地域からモデルが生まれることを期待していますとエールが送られました。



主催者挨拶をする兵庫県生活協同組合連合会の木田会長理事

## 第95回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

## 第95回 国際協同組合デー兵庫JCC宣言



兵庫 JCC 宣言を読み上げる  
兵庫県漁協女性部連合会の森会長

国連が宣言した「国際協同組合年」から5年が経過しました。その間、国際情勢は、民族紛争やテロなど、世界的に調和が乱れ、自国の利益を優先する風潮が見られます。

このような中、2016年、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）において「共通の利益の実現のために協同組合を組織するという思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。このことは国際社会が協同組合の地域への貢献を評価したことを示すものであり、協同組合が今後さらに発展することへの期待につながっています。

兵庫 JCC は、県下の生協、農協、漁協、森林組合の4つの協同組合が連携し、平和とよりよい生活をめざす協同組合運動の、より一層の前進と協同組合間の連携を強化するため、34年前に発足しました。

今日まで、相互交流と連携強化を図るためにさまざまな活動を行い、消費者と生産者の協同組合間協同は一層強固なものとなり、お互いの事業と活動は一体化し実を結びつつあります。

私たち協同組合は、相互に助け合い、よりよい暮らしを実現するための組織です。協同組合を構成する組合員ひとりひとりが「自ら行動し、助け合うことで社会を変えていく」という理念のもと、地域社会や経済、安全安心な食料の供給、環境の保全などにおいて、果たすべき役割とは何かを改めて見つめ直し、互いに手を取り合い、持続可能な地域社会の発展のために活動を進めていかなければなりません。

本日、第95回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ原点に還り、「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに、次世代に向け、協同組合間協同の連携関係を継続させる取り組みをさらに前進させます。そして「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、心を一つにして、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2017年7月6日

第95回 国際協同組合デー兵庫県記念大会

### 兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県下の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）、の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回の協同組合デーを機に設立したもので、本年度で34周年を迎えます。

## 第95回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 記念講演(抜粋)

## 「おひとりさま」と「おたがいさま」

講師：社会学者・東京大学名誉教授・

認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長 上野 千鶴子(うへの ちづこ)氏



1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。1995年から2011年3月まで東京大学大学院人文社会系研究科教授。2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。高齢者の介護問題にも関わっている。

著者に『ケアのカリスマたち 看取りを支えるプロフェッショナル』(亜紀書房)、『おひとりさまの最期』(朝日新聞出版)、『上野千鶴子のサバイバル語録』(文藝春秋社)など。

## 記念講演

こんにちは。おひとりさまの上野千鶴子です。私がこういう所に呼んでいただけになったのは、この本「おひとりさまの老後」を書いたおかげです。これは、女性のために書きましたので、男性版は無いのかと言われてまして、「男おひとりさま道」も書きました。そのあと私も順調に加齢いたしまして、今や看取りを考えるようになりましたので、「おひとりさまの最期」、これでおひとりさまシリーズの3部作が完結いたしました。

今、団塊世代は全員前期高齢者、2025年になると全員後期高齢者になります。これが2025年問題と言われているものですが、なぜ問題かという、後期高齢者になると、要介護認定率、そして認知症発症率が上がります。超高齢社会、人口減少社会に突入し、いずれは皆が弱者になる。だとしたら、誰もが安心して弱者になれる社会を作ればよいと思います。

これまでは、お年寄り家族の中で支えられて生きてきましたが、その家族がこれだけ脆弱になりました。家族頼みができなくなったときに、家族、親族に代わる支え合いのネットワークがあればいいんですよね。ところが、お世話を受けなくてはならなくなったお年寄りをまとめて面倒を見ようと、もっと施設をという掛け声が上がっています。待機高齢者32万人と言われますが、ほとんどのお年寄りは、ご自身の意思ではなくご家族の都合で施設にお入りになる。家族がいなければ、あるいは迷惑をかける必要が無ければ、本当は最期まで家にいたいというのがお年寄りの悲願です。

家族の介護力を期待できない独居高齢者の在宅をどう支えるのか。厚生労働省は、地域包括ケアシステムを進めています。包括とは、医療と介護の一体化です。介護にはふたつのハードルがあります。看取りケアと認知症ケアです。在宅看取りはこれまでは同居家族がいなければ無理だと言われてきましたが、今は独居でも可能です。

私はこれを在宅ひとり死と呼んでいます。在宅ひとり死は、①本人の強い意志、②司令塔の存在(意思決定をする人)、③医療・看護・介護の多職種連携システムがあればできるということがわかってきました。認知症ケアについては、武蔵野市の福祉公社による成年後見制度や、高松市の事業者との見守り協定など、高齢者の見守りネットワークがあります。

ほんちょっとの助けがあればひとりで生きていけるための助け合い、支え合いにおける地域とは、ご近所つながりではなく、共通の目的や志を持った人たちの選択的、自発的な集まりです。これを私は選択縁と呼んでいます。なぜそれが必要なのか。それは、私たちが弱いから、これからますます弱くなっていくからです。私たちはそれを受け入れて、お互いに支え合うネットワークを作らなければなりません。その例として、コミュニティカフェが各地に生まれています。デイサービスのよう資格を問わず、多世代が集える場所、地域の茶の間です。

超高齢社会において、何を困っているのか自分が発信する、つまり自分の運命を自分で決める思考の権利、これを当事者主権と私は呼んでいます。この権利を奪われてきたのが社会的弱者です。もとは自分たちがほしいものは自分たちで作ります、自分たちの安全は自分たちで確保するという消費者主権の考え方です。

自分の生き方は自分たちで決めるのが協同組合です。私たちは、弱いから、支えが必要だから助け合いをしてきました。これからますます高齢化が進みますが、弱者でも安心できる社会を作ることが協同組合の目的です。その方向に、皆さま方が、次の一步を考えていただければと思います。各地で試行錯誤が進んでいる最中です。人材、アイデアがたくさん生まれることを期待しています。協同組合の老舗であり先進地である神戸で、神戸モデルが生まれることを期待しています。

## 「虹の仲間づくりカレッジ」を開く

兵庫 JCC では、次世代を担う協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割についても考えることを目的に、2015 年度から生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を開いています。今年度は、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「職員ボランティア活動」の実験的展開を通して考えることをテーマに、全 3 回の講座で開きます。

第 1 回目は、7 月 25 日～26 日にコープこうべ協同学苑で開き、16 人が参加しました。京都生活協同組合の福永晋介さんが「協同組合原則と援農隊・地産地消について考え

る」と題して、職員による援農隊の取り組みや、「産直さくらこめたまご」などの地産地消の取り組みについて講演しました。

その後、各協同組合が、兵庫県内の「生産」「環境」「地域コミュニティ」が抱える課題とボランティアで解決している事例について報告しました。

参加者は、講演や事例報告を受けて、これらの課題に対して協同組合の職員としてできることを話し合い、職員ボランティア活動の実践企画について考えました。

第 2 回目は、9 月 12 日に開き、10 月から 1 月に行うボランティア活動の実践計画づくりを進めました。



講演する京都生協の福永さん



講演や事例報告を受けて、ボランティア活動の企画づくりをすすめました

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 兵庫県生協連「医療生協いち押し活動交流会」を開く

7月31日、兵庫県農業共済会館で、互いの活動を知り、組合員・職員の交流を図ることを目的とした「医療生協いち押し活動交流会」を開き、8医療生協の組合員、役員と職員合わせて67人が参加しました。

各医療生協が取り組みを進めている一押し活動を発表し、グループ毎に発表についての意見交換と、発表者との質疑応答を通して交流を深めました。



意見交換する参加者

参加者からは「他生協の活動が良く理解できました。3時間があったという間で」「じゃんけんゲームや漢字パズルなど参加型の発表が良かった」「いち押し活動だけあって、きめ細かく活動されていると刺激を受けました」「来年も開催してほしい」などの感想が寄せられ、有意義な交流会となりました。



姫路医療生活協同組合による活動発表

### 「第29回近畿地区生協・行政合同会議」を開く

8月29日、「第29回近畿地区生協・行政合同会議」が、シティプラザ大阪で開かれました。この会議は、近畿2府4県と福井県を加えた7府県の生協連合会で構成する「近畿地区生協府県連協議会」主催で毎年開いています。各府県の自治体生協担当者等を交えた総勢47人が参加し、活動の交流と協働、連携によって安心してらせる地域社会づくりへつないでいくことを確認しました。また、引き続き開かれた懇親会では合同会議の感想や情報交換が活発に行われ、行政の担当者の生協理解促進と、連携への期待が高まる大変有意義な機会となりました。



近畿地区生協・行政合同会議

## JForest(森林組合)から

### CLT 工法等による兵庫県林業会館の建替計画について

兵庫県森林組合連合会の事務所が入居している兵庫県林業会館（昭和47年に建設、築44年）を、大規模な木造建築が可能なCLTを活用して建て替えることになりました。完成すると、防火地域の耐火建築物として床も含めた主要構造部にCLTを利用する全国初の建物となります。

CLTはCross Laminated Timberの略で、ひき板を繊維方向が直行するように交互に接着した重厚なパネルで、欧州で開発された工法です。工場でのCLTパネルの加工が行われるため現場での施工が少なくなることによる建築期間の短縮や、木材を使用することによる断熱性や省エネ効果等が期待されています。

新しい林業会館は1階をRC（鉄筋コンクリート）造、2階から5階をCLT工法で建設する予定としています。

建て替えに伴い、兵庫県森林組合連合会の事務所が2017年11月から2019年2月（予定）まで下記の場所に移転します。また、連絡先も変更となります。

<移転先住所>

〒652-0881 神戸市兵庫区松原通2-2-2

電話：078-381-5425 FAX：078-381-5435



現在の兵庫県林業会館

# JA(農協)から

## 近畿地区の JA グループと共同でテレビ番組を制作

JA グループ兵庫は、近畿地区の JA グループと共同でテレビ番組「地域とともに地域のために ～暮らしを支える食と農～」を制作しました。JA のさまざまな取り組みを広く知ってもらうことが目的です。

今回は JA 兵庫六甲の協力を得て、大学生ボランティアが主体となって企画・運営する農業体験イベント「大学生と親子で農業体験 in 三田」を取り上げました。このイベントは、三田市内に住む小学生とその家族を対象として、黒大豆枝豆の播種から苗作り、畑の管理、収穫、販売までを体験して、農業の楽しさと厳しさを学んでもらうことを目的に開きました。同 JA 三田地域青壮年部三輪支部、同 JA 三輪支店、三田市が運営のサポートをしました。8月19日に草抜き、10月14日には黒大豆枝豆を収穫後、三田駅前子どもたちが対面販売を行い、その様子を撮影、取材しました。参加した子どもたちは道行く人に元気よく、大きな声で黒大豆枝豆の販売を呼び掛けました。

番組は11月26日、サンテレビで放送されました。



自分で育てた黒大豆枝豆を販売する子どもたち

# JF(漁協)から

## 兵庫県水産振興議員連盟と JF 組合長懇談会

9月22日、神戸市内のラッセホールにおいて「兵庫県水産振興議員連盟と JF 組合長懇談会」が、井戸知事、荒木副知事をはじめ、県会議員と JF 組合長ら関係者約100人が参加して開かれました。



井戸知事ご挨拶

この懇談会は、水産資源の減少並びに漁業後継者の減少に加え、瀬戸内海では、栄養塩不足等による漁場環境の変化、日本海では外国漁船の不法操業等により厳しい環境にあり、漁業者だけでは解決できない問題が山積するなか、水産業の振興を図り、漁家経営の安定の一助とすることを目的に毎年開かれています。



意見交換会

今年度は、「但馬地区における沿岸漁業の現状と課題」「瀬戸内海環境保全特別措置法の改正から2年、今瀬戸内海では」の話題提供が行われ、その他にも地域で抱えている問題について活発な意見が交わされました。

## 協同組合間協同「マリンスクール」



魚のつかみ取り

コープこうべ・JF 神戸市・JF 兵庫漁連は、協同組合間連携事業として「マリンスクール」を、7月に JF 神戸市で、8月には兵庫県水産会館にて開きました。

参加した親子、約130人は、「セリ市」の見学や「魚のつかみ取り」、「干シダコ作り」や「アジの三枚おろし」などを体験したほか、「兵庫の漁業と環境のつながり」について学習しました。

このような活動を通して、兵庫の海を知ってもらい、多くの人に水産物の魅力を身近に感じてもらえるよう、今後とも魚食普及活動に取り組んでいきます。



干シダコ作り

## 協同組合運動 に生きる

# 協同組合に生かされる — 小さな協同のために —

JA 兵庫中央会 協同組織部長 小寺 收



協同組合のおかげで、私はこれまで生きてこられた、と思っています。それは、JA 兵庫中央会の職員として賃金をいただいていた、ということだけではなくありません。もし、この世に協同組合がなかったら、私の人生はたいそうつまらなく、貧しいものだったに違いありません。食事をはじめとする日々の暮らしに必要なものを得て、健康を維持するとともに病気になった時の治療と保障、さらにもう起こってほしくはありませんが、災害への備えなど、私のライフラインは協同組合によって維持されていると思っています。

そのような実感を抱きながら、これまでの30年余の協同組合人生を反省しつつ、これまでできなかった協同組合「運動」に挑戦してみたいと考えています。

### 「協同組合がより良い地域をつくります」

協同組合第6原則は、協同組合間協同の原則であり、第7原則は地域社会への係わりです。この2つの原則を掛け合わせた運動ができないだろうか、と模索しています。すでに兵庫県内の協同組合は、農産物や水産物の「地産地消」に取り組み、成果をあげています。そうした実績を踏まえて、これからの地域社会で、協同組合が必要とされること、協同組合だからできることがあるのではないかと、いう仮説を立てています。それは、今、日本のほとんどの地域で人口が減少し、高齢化が進行しているという現実があるからです。国連が定めた2012年の国際協同組合年のスローガンは、“Cooperative Enterprises Build a Better World.”です。この言葉は、年を経るごとに重要性を高めていくように思います。とくに日本において。

### 「小さな協同」としての「こども食堂」

何ができるだろう... 協同組合間協同で地域社

会に係わっていく具体策を求めて、県内の協同組合関係者や研究者と意見交換をしている中で出会ったのが「こども食堂」でした。子供の貧困問題には、今日の日本の社会・経済・政治の問題が凝縮されているように思います。ただし、こども食堂の実態は多様であり、貧困問題に立ち向かうだけではなく、地域社会における人と人のつながりを求めることに重点をおいた取り組みもあります。湯浅誠さんによると、前者を「ケア付き食堂」、後者を「共生食堂」と定義されており、私が今、時々顔を出しているのは後者のタイプです。

それは「大庄レストラン」と称して、月1回、コープこうべの組合員集会室を借り、10人くらいのスタッフが30人分くらいのカレーライスを提供しています。その活動は、「小さな協同」と呼ぶにふさわしいものです。

### 「大きな協同組合」は地域に根ざせるか

実は「大庄レストラン」には、私の仕事上と、私が生活している地域の中でと、偶然、同じ頃に出合いました。組織人として、地域住民として、どのように係わっていけるか、少し迷いました。そして、現時点で私が行っていることは、食材の一つであるお米を地元の農家から調達して使ってもらうことです。

月1回、3kgの、しかも地域で作られたお米を供給することは、生協でもJAでも無理がありました。「小さな協同」と「大きな協同組合」とのギャップです。地域と係わっていくためには、既存の協同組合では大きすぎる場合がありますが、ダウンサイジングは可能だと思っています。それは組織を単純に小さくすれば良いという意味ではなく、小さな協同が保障される協同組合の仕組みを創ること、それが私のささやか挑戦です。